



出水高校だより

第十五号 令和三年九月二十五日

芸術の秋を楽しむ

「あくね洋画展」開催中



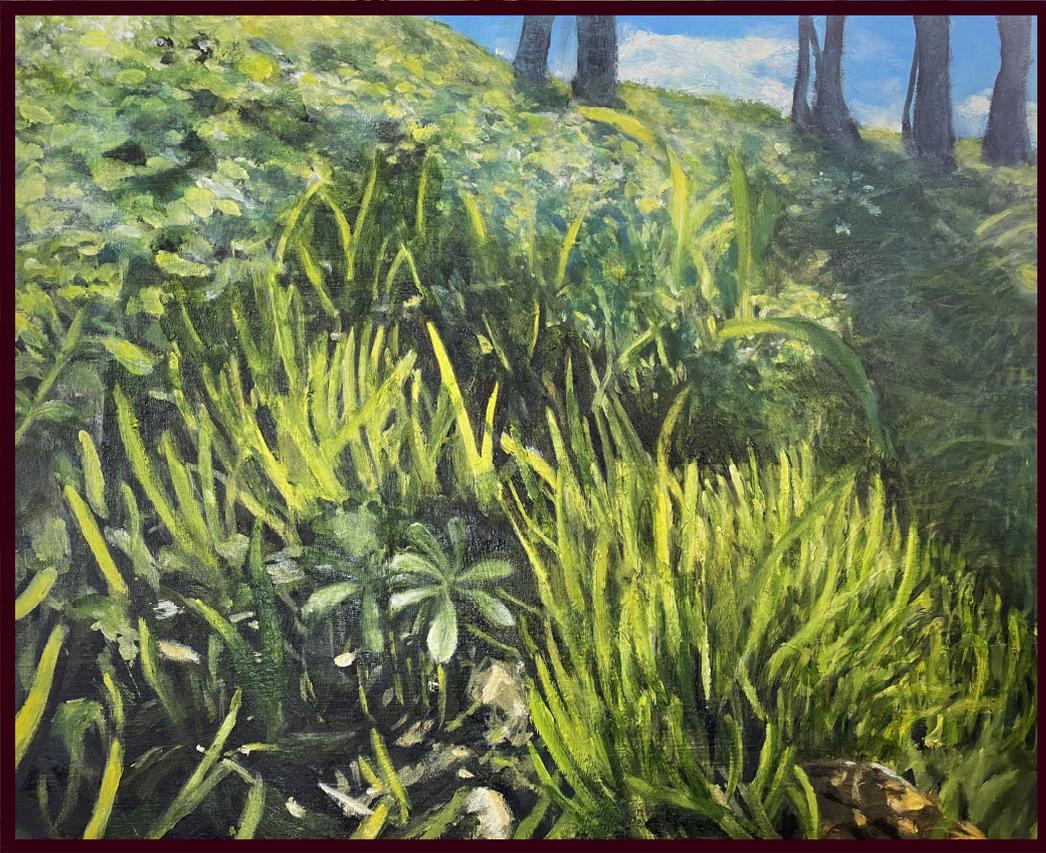
小林暁香さん

「第二十三回あくね洋画展」(阿久根市などの主催)が、「風テラスあくね」にて三十日(木)まで開催されています。この洋画展で、小林暁香さん(二年生)が高校生賞に入賞しました。さっそく小林さんにお話を聞きました。

今回、「高校生賞」には三人が選ばれています。小林さんは初めての受賞なので、そうです。画題は「春の午

後」。作品に添えられた審査員コメント欄には、「緑色だけの表現は難しいが、うまく捉えている」「遠近感がよく出ている」などの講評が寄せられています。小林さんは、もともと緑と黒のコントラストを描くのが好きなのだそう。この作品は今年の春から取りかかり、完成まで一か月ほどかかったとのこと。「立体感を出すために、近くに草と遠くにある草の太さを変えたり、光が当たっている部分に白を入れたり」と小林さんは制作過程を振り

返りました。「今後は青色を主体とした絵に挑戦してみたい」と語る小林さん。将来の夢は、漫画家やイラストレーターなど、絵に関わる仕事に就くことなのだそうです。これからますます絵の力量を高めて、ぜひ夢を実現させてください。心から応援しています。



小林さんの作品「春の午後」

雑感

昨年十一月、東京都町田市の六年生の女子児童が、いじめを訴えて自殺した。学校が配布したタブレットがいじめの温床になったらしい。▼チャット機能を利用して、「キモい」「死んで」などの悪口が書き込まれたとのことだ。遺書には「(私は)おまえらのおもちゃじゃない」などと書かれていたと報じられている。尊い命が失われたことに心が痛む。

▼政府が進めるGIGAスクール構想により、教育現場に情報端末が普及しつつある。このこと自体は悪いことではない。ただし、端末によるいじめは、家でも休日でも被害者を追い詰める。さらには、いじめの存在がなかなか外部には分からない。▼情報ツールの便利さの裏に潜む危険性をしっかりと子どもたちに理解させる必要がある。教育の情報化は、その土台があつてこそ成り立つのだ。(宮原)